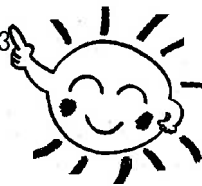
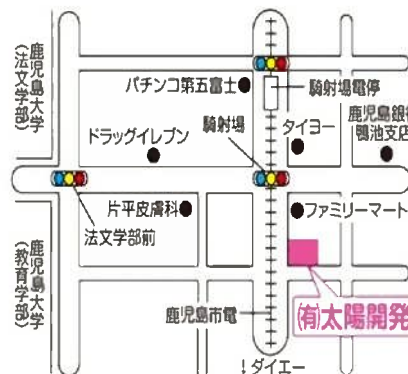


# SUNSHINE

第 73号 2013年 7月発行  
 有限会社 太陽開発  
 鹿児島市鴨池2丁目1-12 Tel.099-255-3623  
 E-Mail master91@taiyou1991.com  
 URL http://www.taiyou1991.com/



太陽開発 検索 クリック!!



## 第一メゾン紫原 オーナー 徳永様

賃貸マンション(オーナー様)をご紹介します!



今回ご紹介させていただくオーナー様は紫原4丁目にある『第一メゾン紫原』のオーナー徳永様で、この度、7月より当社太陽開発にて管理をさせていただくことになりましたマンションです(\*^\_^\*)  
 紫原の大通りから1本入った通りに位置しており、タイヨー、コープ、コンビニ、薬局など徒歩3分以内にさまざまなお店があるので、とっても便利な場所です♪個人的には紫原の中では一番便利のよい立地だと思います(^o^)  
 間取りは全タイプ2DKの広さで、単身者からカップルまたは、ファミリーでも使える多様な間取りです♪1階が駐車場になっており、屋根付きなので火山灰から車を守れます!!  
 今回管理をさせていただくことになり、現在空室もありますので、早く満室になるように賃貸担当全員、全力で満室にしたいと思います!! 当社ホームページ・インターネットサイトや雑誌等でも掲載中です!(^^)!

7月6日(土)TVで再放送されたNHKスペシャル『足元の小宇宙-生命を見つめる植物写真家』という番組を加古川在住の叔父さんに紹介してもらい見ました。内容は、植物写真家の埴沙萌(はにしゃぼう)さんが、山里に住み、身近に自生した植物の生態を撮り続ける日常と、神秘的であり、今まで見たことのない面白く美しい写真が紹介されました。  
 82歳で少し腰の悪い埴さんは、おしゃれなニット帽を被り、植物と対話できるかのように十分時間をかけて写真を撮っていました。キノコの傘から胞子がオーロラのように流れ出る動画や、野草の葉っぱに水滴が光り輝く水晶玉のように付いた写真、植物の種がはじけ散る瞬間の写真等、日頃身近にある植物ですが、なかなか目にするのできない写真が紹介されていました。  
 改めて植物にも命があり、生きていて、日々活動していることを再認識しました。だんだん年齢を重ねて来ると、自分自身に対する期待、わくわく感が無くなり、自分以外の人や物事の変化に無関心になりがちですが、82歳の埴さんが、まるで初めておもちゃを与えられた子供のような感性で、通常見ることのできない植物の世界を写真で表現し続けることに感心しました。  
 また埴さんがゆったりとした日常の中で、まだ見たことのない植物の表情をカメラで追い求め、それをインターネットで配信するというライフスタイルが大変うらやましく思いました。  
 興味のある方は、是非インターネットで“埴沙萌の植物記”を検索してみてください。



# CHINA-BAR チャイナバル



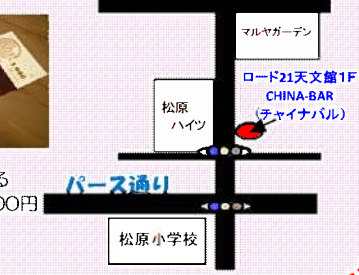
鹿児島市松原町11-20 ロ-ト 21天文館1F  
 営業時間 18:00~22:00  
 電話 099-225-0008

今回ご紹介させていただくお店は6月にオープンした松原町にあります「CHINA-BAR(チャイナバル)」さんです。中国から来られた料理人が作る『西安料理』のお店です。お店のシステムは、最初に3,000円分のチケット(300円×10枚)を購入して、料理が来たら店員さんがチケットをちぎってお支払いをするシステムになっています。オーナーの上山さんは当社の代表の川越とは同級生で、川越が上山さんから「中華料理のお店を出す」と聞き、今回、お祝いも兼ねて社員で食事に行きました。中華料理のお店を出すきっかけは、福岡で中華料理を食べる機会が多く、その店の料理がすごく美味しく、オーナーに「一緒にお店をしましょう!」と頼んで、松原町に店を構えたそうです。

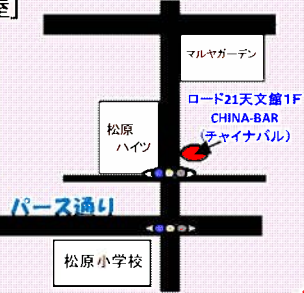
料理人のデンさんとドウさんには、「好きな料理を作ってくれ」と言っているらしく、西安の家庭料理から皆さんの知っている中華料理までいろんな料理が楽しめます。ちなみに料理人のデンさんとドウさんは中国ではすごい料理人らしいです!みなさんご存知でしたか?中国人(四川の人)に四川料理は辛いと言ったら怒るらしいです…。四川という地域は乾燥地帯の為、食事で汗をたくさんかかせて疫病を防ぐ為に辛い料理になっているそうです。そんな理由があったなんて私は知りませんでした。今回頂いた西安料理は四川料理の影響を受けている為、確かに辛かったです。料理に使うラー油やドレッシング等も全て料理人が作っているらしいです!さらにお野菜も無農薬のお野菜を使っているのでも安全おいしいですよ!

今回、オーナーの上山さんのご好意で「サンシャイン」を持ってこられた方には「紹興酒」を1杯プレゼントさせていただきます!

私も頂きましたがすごく飲みやすい紹興酒でした。是非皆さんも本格四川料理を食べて今年の夏を乗り切りましょう!  
 ps. オーナーの妹さんは料理の鉄人(陳さん)とお友達らしいです♪うらやましいですね。[守屋]



最初に購入する  
チケット 3,000円



## 今月の一冊 神様のカルテ

No.72



夏川 草太: 1978年大阪生まれ。信州大学医学部卒。長野県にて地域医療に従事。2009年「神様のカルテ」で第10回小学館文庫小説賞を受賞してデビュー、2010年本屋大賞第2位。

『神様のカルテ』1.2それぞれの解説で、上橋菜穂子さんは「心地よい物語」、田中芳樹さんは「ころよい作品」と評されています。将にその通り!病院が舞台で、涙する場面も多々あるけれど、読後感は「心地よい・ころよい」。一止・榛名夫妻の暮らす“御嶽荘”は、私の大好きな森見登美彦ワールドを彷彿させ、面白いです。登場人物も皆、魅力的。2011年には、桜井翔君・宮崎あおいちゃん主演で映画化もされていますが、来年には新たに藤原竜也君も出演の第2弾が公開されるそうで、こちらも楽しみです。



カバーイラスト:カスヤナガト

栗原一止は信州にある「24時間、365日対応」の病院で働く、悲しむことが苦手な29歳の内科医である。職場は常に医師不足、40時間連続勤務だって珍しくない。  
 ぐるぐるぐるぐる回る毎日に、母校の信濃大学医局から誘いの声がかかる。大学に戻れば最先端の医療を学ぶことができる。だが大学病院では診てもらえない、死を前にした患者のために働く医師でありたい…。悩む一止の背中を押してくれたのは、高齢の癌患者・安曇さんからの思いがけない贈り物だった。2010年本屋大賞第2位、日本中を温かい涙に包み込んだベストセラー。(小学館文庫裏表紙より)

栗原一止は、夏目漱石を愛する信州の内科医だ。「24時間、365日対応」を掲げる本庄病院で連日連夜不眠不休の診療を続けている。  
 4月、東京の大病院から新任の医師・進藤辰也がやってくる。一止と信濃大学の同級生だった進藤は、かつて“医学部の良心”と呼ばれたほどの男である。だが着任後の進藤に、病棟内で信じがたい悪評が立つ。失意する一止をさらなる試練が襲う。副部長先生の突然の発病…この病院で再び奇跡は起きるのか? 史上初、シリーズ二年連続本屋大賞ベストの大ヒット作。(小学館文庫裏表紙より)